

▼安全を第一に運転する佐上さん。乗客の感謝の言葉が何よりの励みになるという



清流錦川を眼下に緑豊かな山あいを駆け抜ける美しい車両、錦川清流線。沿線住民や鉄道ファンに愛され、開業30周年を迎えた鉄道で、運転士として日々奮闘するのは佐上和義さんです。佐上さんは元々運転士に憧れていたわけではありません。33才まで販売員として働いていましたが、転職を希望し、たまたま職安で見つけた錦川鉄道



この鉄道の魅力を 一人でも多くの人に

の運転士に応募しました。「接客業がいいと思っていましたが、鉄道に興味があったわけではありません。最初は知らないことばかりで大変でした。」最初の4カ月は運転士の免許を取るために必死で法令の勉強をしました。筆記試験合格後は、指導運転士に教わりながら実際に乗客を乗せての運転訓練が始まります。「ずっと高速道路を運転しているようで気が張りっぱなしでした」と当時を振り返る佐上さん。9年たった今でも運転が一人前になったとは思えないそうです。「状況が同じ日は一日もありません。天候や乗客数で運転は変わりますし、倒木や落石が線路をふさいでいることもあります。状況に応じた安全な運転をするために毎日が勉強です」

Vol.102

佐上 和義さん
(由宇町在住)

平成20年から錦川鉄道(株)に勤務し、運転だけでなく、指令、窓口などの業務も行。地域交通の役割を果たしながら、多くの人に楽しんでもらえる鉄道でありたいと考えている。

輸送の手段としか考えていなかった鉄道が今では大好きだという佐上さん。休日には他の鉄道に乗ってみることもあります。「純粋に楽しいし、放送を聞いて『自分も使ってみよう』と思うなど勉強になることもあります」というほど、鉄道の魅力に取りつかれました。そんな佐上さんが清流線の一歩の魅力と話すのは車窓から見える美しい自然。「四季折々それぞれに美しさがあり『わー、きれい』と歓声が上がることもあります。私自身、目の前の光景に目を見張ることがあります」佐上さんには夢があります。「岩国市民の中にも清流線に乗ったことがない人、さらには存在すら知らない人がいるんです。全ての市民に清流線を知ってもらいたい、それが私の夢です。そして、実際に乗って魅力を感じてもらいたい、そのためにできることは何でもしていききたいと思っています」



▲9月16日の利き酒列車でデビューした新車両は飲食を楽しむやすい



▲美しい自然の中を走る色鮮やかな錦川清流線

